

Journal

日本大学法学部の「いま」がわかる広報誌

ジャーナル vol.28

2019 October ▶ 2020 January

28

特集

日本大学創立130周年 / 日法の教員力

2019 October ▶ 2020 January



日本大学創立130周年 法学部長挨拶

特集 日法の教員力



日本大学法学部 Event Schedule

10月～2020年1月

就職指導課		教務課	学生課	研究事務課
		庶務課	大学院事務課	入学センター
10 October	10月10日(木) 10月17日(木)	マイナビガイダンス	10月4日(金)	日本大学創立記念日(休校)
	10月11日(金)	「会社四季報」を使いたい会社の選び方ガイダンス 業界研究ガイダンス(入門編)	10月10日(木)	第4回法務研究科進学相談会 教
	10月11日(金) 10月18日(金)	リクナビガイダンス	10月10日(木)～ 11日(金)	履修登録中止期間(後学期開講科目) 教
	10月16日(水)～ 18日(金)	日経講座「ビジネスの基本」★	10月14日(月・祝)	「体育の日」は平常どおり授業を実施 教 講義参加型企画 教
	10月18日(金)	業界・企業・職種研究セミナー① 業界・企業・職種研究セミナー② 自己分析・エントリーシート作成ガイダンス	10月20日(日)	日本大学ワールド・カフェ実施日 教
	10月25日(金)	業界・企業・職種研究セミナー③ 業界・企業・職種研究セミナー④	10月中旬	日本学生支援機構奨学金満期(貸与終了)者向け説明会 教
10月上旬～ 11月下旬	内定者による活動報告&相談会	10月26日(土)	第42回法律討論会 教	
10月～2月	各種業界研究ガイダンス			
11 November	11月上旬	エントリーシート攻略テスト★ R-CAP(自己診断テスト)★	11月上旬	令和2年3月卒業及び卒業延期に関する手続き期間 [4年生対象] 教
	11月14日(木)	SPI3対策テスト★	11月2日(土)	第40回法務祭準備日(休講) 教
	11月中旬	SPI3対策講座12月コース説明会	11月3日(日・祝)	ミニオープンキャンパス 教
	11月～12月	業界・企業・職種研究セミナー	11月3日(日・祝)～ 4日(月・休)	第40回法務祭(休講) 教 行政なんでも相談 教
12 December	12月上旬～ 12月下旬	SPI3対策講座(12月コース)★ 各種公務員業務説明会	11月5日(火)	第40回法務祭片付日 教
	12月上旬	SPI3WEBテスト説明会 エントリーシート攻略テストフォローガイダンス R-CAP(自己診断テスト)フォローガイダンス	11月9日(土)	定期無料法律相談会 教
	12月14日(土)	令和元年度 資格・検定・公務員試験褒賞制度褒賞授与式	11月14日(木)～ 15日(金)	ゼミナール入室申込期間 [2年生対象] 教 ※第一部・第二部ともに、11月14日(木)10:00～15日(金)19:00まで。
	12月中旬	業界研究ガイダンス(応用編) 面接対策ガイダンス TOEIC講演会	11月16日(土)	130周年記念ホームカミングデー 教
	12月下旬	SPI3対策テスト(第2回)★	11月21日(木)	第5回法務研究科進学相談会 教
	12月～2月	各種業界研究セミナー	11月23日(土・祝)	「勤労感謝の日」は平常どおり授業を実施 教
			11月28日(木)	ゼミナール入室試験(筆記) [2年生対象] 教 ※第一部10:00～10:30、第二部18:00～18:30まで。
			11月28日(木)～ 12月4日(水)	ゼミナール入室試験(口述) [2年生対象] 教
1 January	期間中随時開催	内定者による就職支援プログラム 就職指導課員による特別講座 オフィスアワー・相談ブースによる個別相談 ゲストスピーカーによるキャリア講座(正規授業の一コマにて)	12月上旬	令和元年度第2回公認サークル連絡会 教 令和元年度準公認サークル・新規登録サークル連絡会 教
			12月1日(日)	巡回無料法律相談会(高崎市) 教
			12月14日(土)	定期無料法律相談会 教
			12月上旬	日本学生支援機構奨学金継続手続き説明会 教
			12月25日(水)	1年生英語一斉テスト 教
			12月25日(水)～ 1月8日(水)	冬季休業 教
			1月9日(木)	授業開始 教
			1月14日(火)～ 29日(水)	令和2年度転部(第一部、第二部間)・転科選考出願期間 教
			1月17日(金)～ 18日(土)	補講期間 教
			1月21日(火)	ゼミナール論文提出締切日 教 ※第一部17:00まで、第二部19:00まで。
			1月22日(水)～ 30日(木)	後学期末・学年末試験期間 教
			2月3日(月)	後学期末試験 予備日 教

※ ★印は有料で事前申込が必要。
※ 各種イベント案内、追加については就職指導課、ポータルサイトで行います。

各行事についての詳細は、各担当課にお問い合わせください。 教 就職指導課(10号館2階) 教 教務課(本館1階) 学 学生課(本館1階) 研 研究事務課(5号館1階、学生研究室事務室は5号館2階)
庶 庶務課(本館1階) 大 大学院事務課(13号館1階) 入 入学センター(本館2階)

130周年記念ホームカミングデー

11月16日(土) 法学部神田三崎町キャンパスにて開催

本学部を卒業された校友の皆さまに母校を訪問していただき、著名人の記念講演、懇親会など楽しい一日を過ごしていただけます。
■詳細はP4「130周年記念イベント」をご覧ください。



日本大学法学部 検索 <http://www.law.nihon-u.ac.jp>
本誌「Journal」のバックナンバーは、法学部ホームページにてご覧いただけます。
2019年10月10日発行 日本大学法学部広報 通巻136号 発行：日本大学法学部企画・広報委員会



日本大学創立130周年

令和元年10月4日、日本大学は創立130周年を迎えました。学祖・山田顕義が明治22年に設立した「日本法律学校」は法学部の前身であり、学部創設130年の歴史が息づきます。この節目の年を記念して、小田司法学部長に、法学部の伝統と今後の運営方針について伺いました。

日本大学130年のあゆみは 法学部の歴史と伝統です



日本大学法学部長
日本大学大学院法務研究科長

小田 司

Oda Tsukasa

日本大学のはじまりは 法学部の前身「日本法律学校」

日本大学は、1889年（明治22）に時の司法大臣・山田顕義が「日本法律学校」として創立し、以来法曹界に多くの人材を輩出してきました。「司法の日大」の由来がここにありまます。その建学の精神を受け継ぐのが法学部。日本大学130周年は法学部130年の歴史

なのです。法学部が長い歴史と伝統を誇る学部であることを、節目の年に改めて自覚してほしいと思います。

今年には130周年記念としてシンポジウムやコンサートなどさまざまなイベントも開催されます。法学部では、7月に駐日アイルランド大使に特別講演をしていただきましたが、今後はオーストリア大使の講演を予定しています。

駐日大使の話を直接聞けるのは貴重な機会、ぜひ参加してください。

新しい時代を迎え 法学部はさらに進化します

令和という新しい時代を迎え、法学部でもさまざまな新しい取り組みを進めていきます。

まずは「司法の日大」復活に向けて、2020年度から法学部と法科大学院を5年で修了する「法曹コース」を新設する予定です。法学部を3年で卒業して、法科大学院に2年、さらに2023年の司法試験からは法科大学院在学中の受験が可能になるため、最短5年で司法試験を受けることができます。私は今年6月から日本大学大学院法務研究科長も兼務していますので、法学部と法科大学院の連携をより緊密に進めていく体制が整いました。法学部の学生にぜひ日本大学の法科大学院に進んでいただき、優秀な次代の法律家を育てていきたいと思っています。

グローバルな人材の養成のために、留学支援も積極的に取り組んでいます。今春には米国のジョージ・メイソン大学アントニン・スカリアロースクールと協定を結びました。これにより米国のロースクールに夏休みに短期留学が可能になります。また、フランス2校目の提携校となる西プルトーニョ大学とも協定を結びました。

来年度のカリキュラム改訂では、アクティブ・ラーニング授業の導入、ゼミナールの原則必修化も取り入れます。また、難関国家試験や公務員を目指す学生をサポートする学生研究室、そして就職支援もより充実させていきます。

法学部は都心という立地の良さもメリットです。キャンパスはないですが、街の中に校舎が点在するのは、ヨーロッパの歴史ある大学と同じです。また将来の新3号館建設にあたっては、卒業後も誇れる校舎を考えています。

130年の伝統ある法学部をさらに魅力ある学部としていくために、教職員一丸となって尽力してまいります。



神田三崎町に初の校舎（明治30年代）
1889年（明治22）、「日本法律学校」が皇典講究所内（現在の千代田区飯田橋3丁目）に創立。7年後の1896年（明治29）に三崎町に初の独立校舎が竣工した。

神田三崎町の新校舎（大正9年）
その後「日本大学」と改称し、1918年（大正7）の大学令により大学認可。1920年（大正9）に三崎町新校舎が完成するが、1923年（大正12）の関東大震災で全壊した。



旧法学部本館（昭和2年）
現在の法学部本館。法学部は1949年（昭和24）に法学部と文理学部に再編された。写真左のアーチをくぐると中庭が続いていた（P3左上の写真が当時の中庭）。

旧図書館と旧本部棟（昭和10年）
現在の法学部図書館。日本大学本部は1982年（昭和57）に市ヶ谷に移転、2004年（平成16）に現在の法学部図書館が完成した。



日本大学 学祖・山田顕義 Yamada Akiyoshi

1844年（天保15）、長門国（現在の山口県萩市）に生まれ、14～16歳に吉田松陰の松下村塾で学び、1871年（明治4）、岩倉具視を特命全権大使とする岩倉使節団の一員として、欧米各国を歴訪。そこで彼は、「教育の普及と法律の整備は、軍事に優先する」との確信を持つ。以降、日本における近代法整備に尽力し、1885年

（明治18）第一次伊藤博文内閣で初代司法大臣を務めるなど各内閣で司法大臣を歴任。憲法、民法、商法などの編纂に携わり、近代的法治国家の基礎を確立した。

その山田顕義が日本独自の法典研究と教育にあたる法律学校として、1889年（明治22）に創立したのが「日本法律学校」である。



130周年記念イベント

ホームカミングデー

11月16日(土) 法学部神田三崎町キャンパス

日本大学法学部では卒業生を毎年母校にお迎えし、ホームカミングデーを開催しています。記念講演会や懇親会など懐かしい学び舎を訪ねていただき、当時の思い出を振り返っていただく1日となっております。

今年は2019年11月16日(土)に開催いたします。元中日ドラゴンズ投手で野球解説者・スポーツコメントーターの山本昌氏(日大藤沢高校出身)をお招きしての講演会、学部創設130周年記念講演「学祖・山田顕義を知る」、キャンパスツアー、懇親会の内容となっております。卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

協賛：法学部校友会

※参加には法学部ホームページからの事前申し込みが必要です。

日本大学創立130周年記念特別演奏会

12月1日(日) 13:30開演 サントリーホール大ホール

日本大学管弦楽団は、法学部をはじめ各学部から集まった学生たちで構成されるオーケストラです。130周年を記念して、サントリーホールでの特別演奏会を開催します。

後援：法学部、法学部校友会

【出演】

指揮：佐藤雄一(当団主席指揮者) オルガン：橘光一 日本大学管弦楽団

【曲目】

サン＝サーンス／交響曲第3番「オルガン付き」
ボロディン／歌劇「イーゴリ公」より『鞆人の踊り』
ブラームス／大学祝典序曲

料金：S席2000円 A席1500円 B席1000円

問い合わせ：日本大学管弦楽団 <https://nupo14.wixsite.com/nu-orchestra>

記念展示会

2019年9月～2020年12月

法学部図書館 1階展示ギャラリー・学生ラウンジ

第1期 2019年9月末～2020年1月中旬

『山岡萬之助と法学部の130年』(法学研究所共催)／『法学の歩み(西洋)』

第2期 2020年1月中旬～3月

『アダム・スミスとその業績』(経済学部共催)

「自主創造展」2020年4月～8月 『日本法律学校と学祖 山田顕義』

第3期 2020年9月～12月

『西洋法制史コレクションの調査と保存』

政経研究所シンポジウム

「議会制民主主義の揺らぎ：ヨーロッパと日本の比較から」

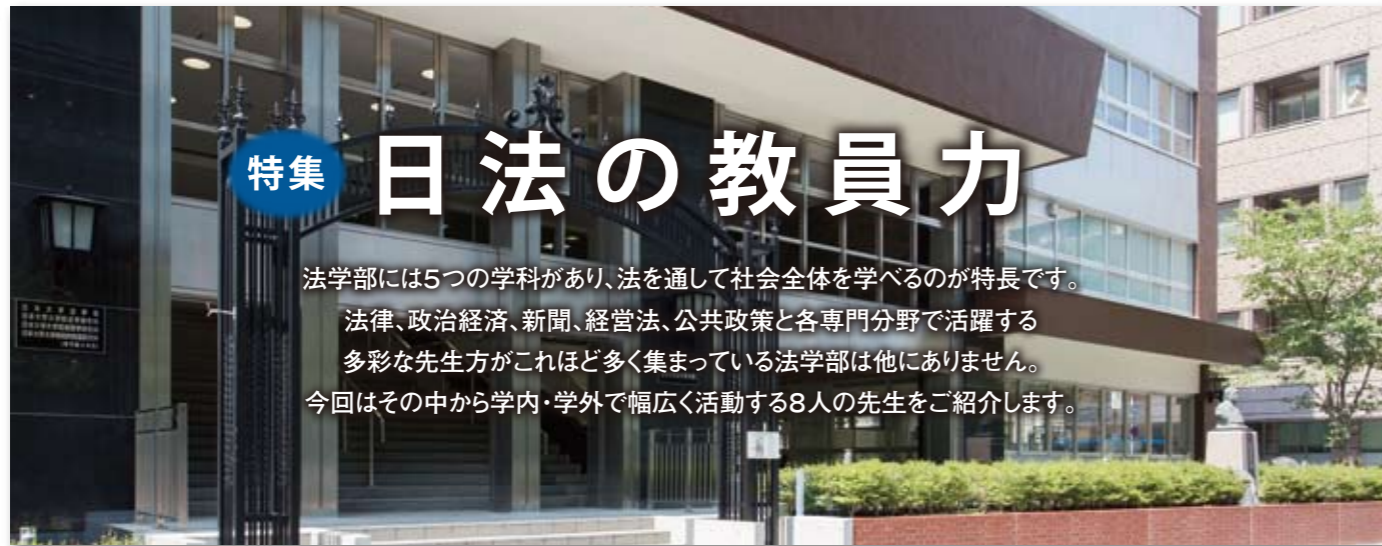
10月24日(木)17時より 法学部10号館1011講堂

日本大学法学部政経研究所では、2018年度から3年計画で共同研究プロジェクト「先進工業諸国における議会制民主主義の揺らぎ：ヨーロッパと日本の比較研究」を実施しています。2019年度は2年目にあたり、共同研究の中間報告として、国内外の専門家によるシンポジウムを開催します。今年は日本大学法学部創設130年の節目でもあり、広く社会に研究成果を発信するために130周年記念シンポジウムを開催することになりました。

【パネリスト(予定)】

トーマス・ボグントケ(デュッセルドルフ大学)／岩崎正洋(日本大学)
新川匠郎(上智大学)／シヨーン・ヴィンセント(青山学院大学) ほか

※参加無料、事前申し込みも不要。日本語と英語の同時通訳つき。



特集 日法の教員力

法学部には5つの学科があり、法を通して社会全体を学べるのが特長です。

法律、政治経済、新聞、経営法、公共政策と各専門分野で活躍する

多彩な先生方がこれほど多く集まっている法学部は他にありません。

今回はその中から学内・学外で幅広く活動する8人の先生をご紹介します。

法律学科

清水恵介 教授

Shimizu Keisuke

自らも弁護士資格を有し、 司法試験合格を目指す学生を強力にサポート

本学法律学科法職課程を卒業後、司法試験に合格。弁護士登録と同時に法学部に教員として戻られた清水先生は、法曹(裁判官、検察官、弁護士)を目指す学生の支援に尽力。学生研究室的司法科研究室的の運営委員長も務める。

「私自身も学生時代は司法科研究室に在籍しました。ただ私は旧司法試験制度なので、今の司法試験に詳しい若手の弁護士先生に1年生のうちから指導してもらおう仕組みを作りました。着実に成果が出つつあると思います」。

専門は民法の担保法。「授業では担保権法を講義しています。将来、金融機関に進む学生も多いので、抵当権はきちんと覚えていってほしい」。

近年は高齢化社会の喫緊の課題でもある成年後見法も手がける。「今こそ誰かがやらなければならない領域だと。学会の常任理事も務めています。さらに、温泉権も研究テーマのひとつです。温泉事業者向け雑誌で連載も始めます」。

「学生それぞれの個性を尊重したい」と先生。法曹を志す学生の心強い味方だ。



Profile

1972年生まれ。日本大学法学部法律学科法職課程卒業。
1996年司法試験合格、1999年弁護士登録(東京弁護士会所属)。
1999年法学部専任講師、助教、准教授を経て、2009年より現職。
日本大学大学院法学研究科私法専攻の教員も務める。

担当授業

民法Ⅲ(担保権法)(法職課程)
ゼミナール【民法】
(大学院法学研究科)民法特殊講義Ⅰ・Ⅱ、専門演習(民法)

学部内委員等

(学生研究室)司法科研究室運営委員会 委員長
学生生活委員会 委員長

学部外活動

社会福祉士及び精神保健福祉士試験委員
日本大学通信教育部スクーリング講師

所属学会

日本成年後見人学会 常任理事
日本温泉地域学会 監事
日本私法学会、比較法学会、
金融法学会、信託法学会



↑共著「任意後見契約書の解説と実務」(三協法規出版)。清水先生は任意後見法制の問題点、改善の基本的方向性などを執筆。

→司法科研究室は法学部から法曹を目指す学生を送り出す「司法の日大」の要。毎年春には説明会が行われる。



←清水ゼミナールでは明治大学、青山学院大学との合同ゼミナールも開催。また、清水ゼミは法学部の「法律討論会」に毎年出場。昨年3位、一昨年優勝の強豪チーム。

令和

— 新たな時代の幕開けに —

野口恵子教授(『万葉集』研究者)

本学が創立130周年を迎えた今年、「令和」という新しい元号が公布された。若い世代からも好感を持って迎えられた元号の典拠は、『万葉集』の「梅花歌三十二首」の序文の一部。文雅を愛する大伴旅人が漢文で記したものである。「万葉集」に掲載されている歌の多くは、ヤマトコトバを万葉仮名で表記しているが、歌以外の序文や題詞等は外国語である漢文で書かれている。まさに固有の言語と外来の言語との融合である。それが現存する最も古い歌集の実態であった。古代の日本は、外国の文化を柔軟に受け入れつつ、自国の文化を育てたのである。

そもそも「日本」という国号は、701年施行の「大宝律令」で制定されたもの。それまでは「ヤマト」と呼んでいたが、実は「日本」という国号も漢語である。東アジアという国際社会の中で、大唐唐を意識し、この列島が太陽の昇る方位に位置することで、自らを「日の本」と定位したのである。

「梅花歌」の序文を書いた旅人は、自分の歌の中の「ヤマト」という語を「日本」と表記している。また、旅人は部下の山上憶良と類繁に歌のやり取りをしたが、その憶良は初めて「日本」の遣唐使の「員」として唐に渡った人であった。彼らは、東アジアの中の「日本」という国号に誇りを持っていたことだろう。

このように、私たちの国の名は世界の中の「日本」として誕生した。決して内向きの国号ではない。したがって、日本大学の「日本」と、世界の中の「日本」でなければならないのである。

「万葉集」巻第五 梅花の歌三十二首の序文
于時 初春令月 氣淑風和
梅披鏡前之粉 蘭薰珮後之香



政治経済学科
杉本竜也 准教授
Sugimoto Tatsuya

Profile

1974年生まれ。日本大学経済学部卒業後、富士通株式会社に7年間勤務。2015年日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了。博士(政治学)。2010年日本大学法学部助手、専任講師を経て、2018年より現職。

**西洋政治思想の歴史を読み解き
現代を生きるための論理的思考を身につける**

本学経済学部を卒業後、一般企業に7年間勤務し、30歳のときに大学院に入り研究者の道に進んだ。「30歳になったらその後の人生を考えよう」と決めていました。研究者を選んだのは学問的な関心が高くなったのが理由です。

専門は西洋政治思想史。「プラトン、ルソーなどから西洋の政治思想の歴史を読み解き、政治を分析する目を養うことがテーマです。そこから現代社会を生きる力を身につけてほしい」。

同時に、ケアの倫理の研究を進める。「ケア」というものを中心に政治に対する考え方を改めてみようというものです。今までの政治学は、自立してきちんと政治に参加できる市民が前提だったのですが、本当はケアが必要な、選挙にも行けない人たちの声を一番政治に反映させなければいけないのではないかと、というのがケアの倫理の主張点です。今後この研究を進めていくのが、僕の研究課題だと思います」。

担当授業

西政政治思想史Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、自主創造の基礎Ⅰ・Ⅱ
ゼミナール【西洋政治思想史】

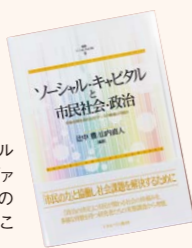
学部外活動

ボーイスカウト千代田第9団 団委員長
日本大学スカウト研究会 顧問
日本大学合気道部 顧問
日本大学通信教育部 インストラクター

所属学会

日本政治学会
政治思想学会
社会思想史学会
日本比較政治学会
アメリカ政治学会 (APSA)

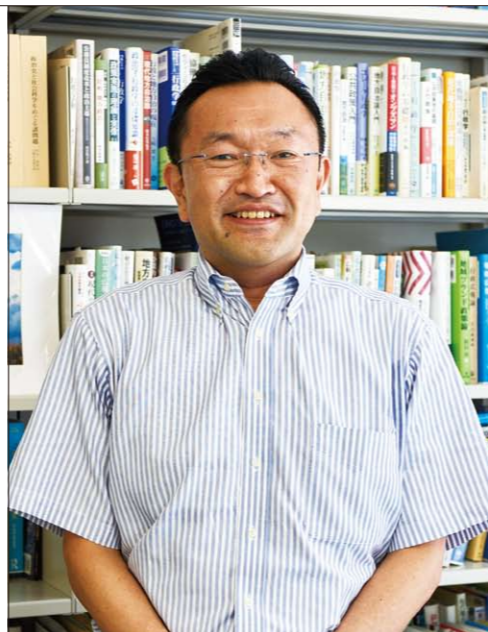
→共著「ソーシャル・キャピタルと市民社会・政治」(ミネルヴァ書房)。杉本先生は第3章の「政治」は「弱さ」と向き合うことができるのか」を執筆。



↑「西政政治思想史」の授業。受講者は100名を超える人気講義。



↑2017年に1年間、米国ミネソタ大学客員研究員として渡米。「ケアの倫理」の世界的権威、ジョアントロントのもとで研究を深める。



公共政策学科
岩井義和 准教授
Iwai Yoshikazu

Profile

1969年生まれ。成城大学文芸学部卒業、日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程単位取得満期退学。修士(政治学)。一般財団法人行政管理研究センター研究員、二松学舎大学非常勤講師、文教大学非常勤講師等を経て、2011年日本大学法学部公共政策学科助教、専任講師、2017年より現職。

**今の公務員に求められるスキルを徹底指導
公務員志望の学生たちをきめ細かくサポートする**

公共政策学科で公務員志望の学生のために奔走する岩井先生。授業はもちろん、行政職課程で必修のインターンシップでは提携先の確保から送り出す学生の教育、さらに公務員のエントリーシート添削や面接対策など、学生一人ひとりを手厚く指導している。公務員試験対策を行う行政科研究室の講師も務めている。「行政科研究室やゼミナールは、公共政策学科だけでなく全学科から公務員志望の学生が集まってきますよ」。

専門は行政広報論。行政と市民のコミュニケーションのあり方、パブリック・リレーションズに基づく研究だ。

「現在求められる広報とは、行政と市民(問題意識を持つ人々)が「協働」で“コミュニケーションを軸に仕事を行う”ことです。市民とのコミュニケーションをきちんと行い、自ら企画して、それをマネジメントしていく力が重要です。将来公務員になって、そういう仕事ができる学生を育てていきたいと思います」。

担当授業

行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策基礎演習、行政広報論、行政広報研究、行政管理論、行政管理研究、専門演習E、自主創造の基礎Ⅰ・Ⅱ
ゼミナール【行政広報論】

学部内委員等

〈学生研究室〉行政科研究室講師
学生生活委員会委員
行政職課程委員会委員

学部外活動

白井市行政経営改革審議会委員
公益財団法人日本都市センター
都市調査研究クラブ審査委員会委員
二松学舎大学国際政治経済学部非常勤講師

所属学会

日本行政学会
日本地方自治研究学会
日本オンブズマン学会 理事
ほか



↑行政科研究室内のOB・OG会。公務員を目指す学生が先輩から直接話を聞ける貴重な機会だ。



↑昨年は日本大学本部の在外研究で半年間、アイルランド共和国と米国へ。今回も大学院時代に留学した米国イリノイ大学で最新のパブリック・リレーションズを研究。



体育実技科目
田邊陽子 教授
Tanabe Yoko

Profile

1966年生まれ。日本大学文理学部体育学科卒業。女子柔道日本代表として1988年ソウル五輪銅メダル(公開競技)、1992年バルセロナ五輪銀メダル、1996年アトランタ五輪銀メダル。1996年筑波大学大学院体育研究科コーチ学修士修了、2016年早稲田大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学修了。博士(スポーツ科学)。柔道七段。2003年日本大学法学部専任講師、准教授を経て、2019年10月より現職。

**女子柔道の三大会連続オリンピックメダリストに
教養としての体育スポーツ科学を学ぶ**

ソウル五輪、バルセロナ五輪、アトランタ五輪でメダルを獲得した日本女子柔道界のレジェンド。現役引退後は、大学院でスポーツ科学の博士号をとり、現在は法学部教授として体育実技と体育スポーツ科学の授業を担当する。

体育実技ではトレーニングや体力の維持、増進を目的としたスポーツを指導。柔道は「転んだときにケガしないように、簡単な受け身だけ教えています」と微笑む。学外では日本アンチ・ドーピング機構と

全日本柔道連盟の理事を務める。「アンチ・ドーピングは教育と啓発、柔道連盟では、普及と教育に取り組んでいます」。

最後に、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、法学部生へのメッセージを伺った。「オリンピック・パラリンピックを開催都市として、迎える機会は数少ない。法学部生には大会を身近に感じながら、オリンピックの基本的理念やスポーツの価値について学ぶ良い機会になればと思います」。

担当授業

体育実技ⅠA・ⅠB、体育実技ⅠC(ソフトボール)(多種目スポーツ)、体育スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ

学部内委員等

学生生活委員会
ほか

学部外活動

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 理事
公益財団法人 全日本柔道連盟 理事
ほか



↑スポーツ科学の授業では、運動と生体のしくみから、ドーピング問題やスポーツコーチングなど、教養としてのスポーツ科学を講義。



←アトランタオリンピックより。表彰式の一歩左が銀メダルの田邊先生。得意技は大内刈り、内股、大外刈り。



新聞学科
石川徳幸 准教授
Ishikawa Noriyuki

Profile

1981年生まれ。日本大学法学部政治経済学科卒業、日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了。博士(政治学)。2011年日本大学法学部助手、専任講師を経て、2017年より現職。日本大学大学院新聞学研究科講師も務める。

**ジャーナリズムの歴史を学び、未来を予測する
新聞学科が法学部にある意義も大きい**

専門は日本ジャーナリズム史、日本近現代史。なかでも新聞報道に特化し、明治期から戦前を中心に新聞がどのように発展したか、社会の中でどんな役割を果たしたかを考察する。「歴史は過去の人々の営みを映す鑑であり、ジャーナリズムは現代社会を生きる人々の営みを映す鑑とも言えます。私たちはこれらの鑑を通して、これから起こりうることを予測し、対応策を考えることができる。歴史は社会科学の大切な要素なのです」。

近年は「デジタル時代の新聞産業」「メディアとしてのマンガ」などの研究も手掛け、日本出版学会の理事も務める。

法学部の新聞学科は70年以上の歴史を誇る学科だ。「新聞学科がなぜ法学部にあるか」というと、新聞記者は政治部でも社会部でも法律や社会の諸制度をわかっていないといけなからです。たとえばエンタメ業界に行きたい人も著作権を勉強しておくべきです。新聞学科が法学部にある意義は大きいのです」。

担当授業

日本ジャーナリズム史I・II、
外国ジャーナリズム史B、
メディアテキストの基礎I・II
ゼミナール【日本ジャーナリズム史】
〈大学院新聞学研究科〉
ジャーナリズム史特殊講義(日本)

学部内委員等

就職(進路)指導委員会
図書委員会
日本大学法学部新聞学研究所/
機関誌「ジャーナリズム&メディア」編集担当

学部外活動

日本大学通信教育部兼任講師
和洋女子大学人文学部
日本文学文化学科非常勤講師

所属学会

メディア史研究会 運営委員
日本出版学会 理事
日本マス・コミュニケーション学会
ほか



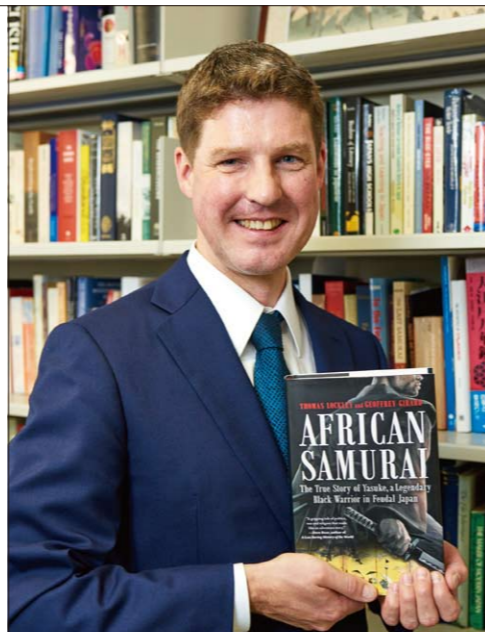
↑ゼミナール合宿より。今年度の共同研究は「選挙報道における公平性」。11月の学部祭で発表する。



↑メディア史研究会では機関誌への寄稿や月例研究会での口頭発表も行う。最新の発表は「日本における『ジャーナリスト教育』/ジャーナリズム教育」の受容と変容。



↑授業「メディア・テキストの基礎」では社会科学の方法論を扱う。



外国語科目・英語
トーマス・ロックリー 准教授
Thomas Lockley

Profile

1978年、イギリス生まれ。英国シェフィールド大学で外国語教員免許取得(PGCE)、英国オープン大学大学院修了(MA Ed.)。2000~2002年にJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)参加者として日本初滞在。2009年より日本在住。2013年日本大学法学部助教、専任講師を経て、2019年4月より現職。

**著書が米国CNNテレビで取り上げられるなど
日本の歴史を国際的視野で伝える英国人教師**

イギリス出身の英語教育者。授業の形態は、近年世界中で注目されるCLIL(教科科目を外国語で教える内容言語統合型学習)を実施。日本の歴史や文化の研究家でもある先生は、国際的視野に立った日本史を英語で教えている。教科書も先生オリジナルで「トーマス・グラバーや王貞治、外国人落語家の快樂亭ブラックなど、学生が興味を持ってそうな人物を取り上げ、その功績を通して英語が自然に身につく授業を行います」。

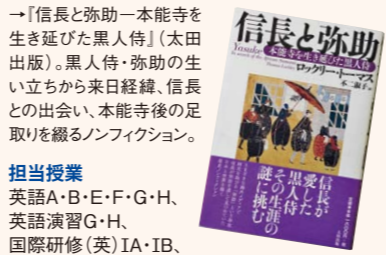
ロックリー先生の日本史研究で特筆すべきは、織田信長に仕えたアフリカ出身の黒人侍、弥助の研究。9年間におよぶ研究成果を、2017年に初の著書『信長と弥助』にまとめ、同書をもとにした英語版『AFRICAN SAMURAI』は、米国CNNをはじめ各国のさまざまなメディアで紹介されるなど大きな話題となった。今年7月には『英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』を出版した。



←最新刊「英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」(東京書籍)。相撲や富士山や寿司など31テーマについて、予備知識や外国人からのよくある質問も掲載。東京五輪に向けて読んでおこう。



↑授業はすべて英語で。1年生の共通クラスから、留学を控えた学生の国際研修まで幅広く担当。



→「信長と弥助-本能寺を生き延びた黒人侍」(太田出版)。黒人侍・弥助の生い立ちから日経緯、信長との出会い、本能寺後の足取りを綴るノンフィクション。

担当授業

英語A・B・E・F・G・H、
英語演習G・H、
国際研修(英)IA・IB、
ReadingIIA・IIB



←先生オリジナルの教科書。歴史上のさまざまな人物を英語で学ぶ。



法律学科
橋爪幸代 准教授
Hashizume Sachiyo

Profile

1976年生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。上智大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程満期退学。修士(法学)。2011年、東京経済大学在任中にサバティカルをとり英国サセックス大学児童学専攻修士課程に留学、修士(児童学)。帰国後、東京経済大学准教授、慶應義塾大学非常勤講師を経て、2019年4月より現職。

**誰もが知っておきたい医療保険や年金問題
社会保障制度のスペシャリストが法学部に新任**

2019年度からの法学部新任教員。専門は社会保障法。授業では医療保険、年金保険、介護保険などの社会保険分野、生活保護、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉などの社会福祉制度を講義。人生のさまざまなリスクをカバーする社会保障制度を網羅している。

「学生からは、もっと早く知りたかった!というリアクションが多いですね」。

研究の中心は児童虐待を出発点とした児童福祉。「児童虐待に対して社会保

障的なアプローチで何かできないかと。たとえば、貧困などで追いつめられてしまうケースが多いなら一人親家庭の支援ができないか。児童を保護したあとの長期のケアが大切なので社会保障でサポートできないか、などです」。

「社会保障制度は時代の情勢でどんどん変わっていきますが、制度の根本がわかっていれば、社会に出てからもいろいろなことに対応できるはず。学生時代にぜひ身につけてほしいと思います」。

担当授業

社会保障法I・II、法学I・II、
自主創造の基礎I・II
ゼミナール【社会保障法】

学部外活動

厚生労働省 社会保障審議会専門委員
日野市福祉オンブズパーソン
渋谷区行政不服審査会 委員

所属学会

日本社会保障法学会 理事
日本社会保障法学会 編集委員



↑ゼミナールの初合宿。1日目は「少子化対策への提言-幸せな子育てができる社会にするには」を題材にした政策提言型のディベート大会。2日目はBBQ+海でのレクリエーション。

→共著「社会保障法」

(有斐閣)。実は身近な社会保障法をわかりやすく解説。橋爪先生は第2章の年金制度を執筆。



法学部の 就職力

就職指導課インフォメーション

来年3月の就活解禁に向けて早めの準備を!
各種就職支援イベントを活用しよう

今後の就職支援イベント

10月以降の支援イベントからピックアップ。自己分析から業界研究、面接対策など様々なプログラムを用意しています。(10~12月の日程はP12を参照)

各種業界研究ガイダンス 10~2月

就職活動の流れや企業の採用の現状、企業の視点を知り、就職活動に向けてこれからの流れを明確にして就職活動をスタートさせるためのガイダンス。

面接対策ガイダンス 12月

内定を勝ち取るための秘訣・面接対策等についての講演。2月には人事担当者による「業界別個人模擬面接」、選考で取り入れられている「グループディスカッション講座」も開催する。

業界・企業・職種研究セミナー 10月

各業界の仕組み・構成についてのセミナー。金融(銀行・証券・生損保ほか)、IT、コンサル、商社、小売、メーカー、マスコミ、インフラ、ホスピタリティ 他。

OB・OG就職相談会 2月

法学部OB・OGによる就職相談会。民間企業、官公庁から約100名のOB・OGが来校。ブース形式で先輩から直接話を聞くことができる。(校友会共催)

自己分析・エントリーシート作成ガイダンス 10月

自己分析のやり方、エントリーシートの書き方などのガイダンス。



内定者による活動報告&相談会 10~11月

内定者たちが、実際に体験した就職活動に基づいてアドバイスを行う。

合同企業研究会・就職セミナー 3月

全学部合同のブース形式による会社説明会(於:東京国際フォーラム予定)。



公務員業務説明会 12月

各官公庁の人事担当者による業務内容および採用試験動向の説明会。説明会後に個別相談もできる。

2 021年3月卒(現3年生)の民間企業の就活スケジュールは、これまで主導的役割を果たしてきた日本経済団体連合会(経団連)が「採用選考に関する指針」廃止を表明しましたが、代わって政府が主導となり2020年3月卒の学生と同様に、来年3月1日から企業の広報活動、6月1日から選考活動が開始されます。3月以降は、会社説明会・セミナーへの参加、履歴書・エントリーシートの提出、筆記試験などで外出が増え、在宅中でも時間を割かれることが多くなることから、それまでにどれだけ準備ができるかが重

要になってきます。まずは自己分析を行い、エントリーシートの書き方や自分が興味を持つ・目指す業界とその企業を研究。併せて筆記試験や面接試験の準備もしましょう。就職指導課では、3月の就活解禁に向けた各種支援イベントを開催します(開催のお知らせは掲示及びポータルシステムを通じてお知らせします)。また就職指導課内の相談コーナーでは、自己分析、業界・企業選び、エントリーシート添削など、専門のスタッフが親身に個別でアドバイスしますので、気軽に利用してください。(就職指導課)

就職指導課

就職指導課は10号館2階。専門スタッフによる「相談コーナー」をはじめ、公務員講座など課外講座の申込み、各種資料なども揃っています。



法学部学生支援室

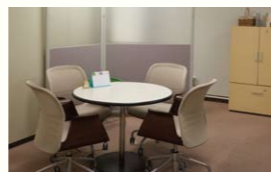
※2019年4月より「学生相談室」から「学生支援室」に名称変更されました。

専門のカウンセラーがあなたの悩み、相談に親身に応じます

法学部では、学生の皆さんが悩んだり、困ったり、話を聞いてほしいときに、専門の心理カウンセラー(臨床心理士)に安心して相談することができる「学生支援室」を開設しています。

学業や進路、人間関係(友人・家族・恋人)、精神的な疲労やストレスなど、カウンセラーが時間をかけてお話を伺いながら対応と一緒に考えていきます。学生生活で困ったことがあったら、気軽にご相談ください。

学生支援室は静かで落ち着いた雰囲気のある完全個室。相談内容やプライバシーに関する秘密は守られます。安心して悩みを相談してください。



場所 本館2階 (保健室と同じ入口を入って左です)

受付時間 月曜~金曜 10:00~16:30

※長期休暇中や入試期間中は開室日時が変わることがありますので、掲示や電話でご確認ください。

利用方法 <電話予約>

03-5275-8548 ※当日の予約も可能です。

<直接来室>

予約の方が優先ですが、空いていればすぐに相談できます。



経営法学科

小阪敬志 准教授

Kosaka Takashi



Profile

1982年生まれ。中央大学商学部会計学科卒業、中央大学大学院商学研究科修了。博士(会計学)。中央大学在学中に旧公認会計士試験第2次試験に合格。2012年日本大学法学部助教、専任講師を経て、2018年4月より現職。

公認会計士を目指す学生のサポートはもちろん 社会人のスキルとして役立つ簿記や会計を伝える

大学時代は公認会計士を目指して勉強に励み、在学中に旧公認会計士試験の2次試験合格を果たした小阪先生。専門は財務会計論。法学部では授業やゼミナールに加え、公認会計士科研究室の教員も務める会計のエキスパートだ。

「授業やゼミでは、簿記や会計学の基本を一般的なスキルとして身につけてもらうのが主旨です。資格の有無にかかわらず、銀行など金融系に就職希望の学生には必ず覚えてほしいし、一般企業の

経理部門でも必要最低限のスキルとなる。会社関係だけでなく、個人の資産管理にもおおいに役に立ちますよ」。

一方、公認会計士科研究室では、自身の受験体験も踏まえて環境作りからサポート。毎年合格者を輩出している。

「公認会計士試験の受験者は、多くが商学部や経済学部の学生ですが、法学部から公認会計士を目指すことで、法律の知識も兼ね備えたより付加価値のある人材として活躍できます」。

担当授業

会計学I・II、簿記原理I・II、管理会計論I・II、企業会計法I・IIゼミナール【会計学】

学部内委員等

(学生研究室) 公認会計士科研究室 担当教員 税理士科研究室 講師

学部外活動

中央大学商学部兼任講師 明治大学専門職大学院兼任講師

所属学会

日本会計研究学会 日本簿記学会



↑会計分野における大学生の研究発表大会「第3回アカウンティングコンペティション」で小阪ゼミナールが審査員特別賞を受賞。研究テーマは「仮想通貨の会計処理について」。



→今年度のゼミナールでは、実際の会社の情報を見ながら、その会社のビジネスモデルが、会計情報にどのように表れているのかを調べた。